

【追肥IIについて】

現在、麦の生育は平年より進んでいるため、茎立ち期が平年より2週間ほど早い状況にある。麦踏を行いながら施肥を行う場合は、下表にて施用できる限界の時期を確認し計画的に作業を行う。また、乗用管理機等で麦踏なしで散布が可能な場合は、さらに数日遅らせて生育に応じた作業を検討する。

令和2年産小麦出穂期予測（地点：佐賀） 2019.1.30

品種：シロガネコムギ						品種：チクゴイズミ				
播種日	茎立日	機械上の 施肥限界予測 茎立+10日程	出穂期	開花期	成熟期	茎立日	機械上の 施肥限界予測 茎立+10日程	出穂期	開花期	成熟期
11月1日	1月5日	1月15日	3月6日	4月1日	5月9日	1月7日	1月17日	3月10日	4月3日	5月18日
(平年値)	(1月14日)		(3月22日)	(4月11日)	(5月15日)	(1月19日)		(3月27日)	(4月13日)	(5月22日)
11月6日	1月12日	1月22日	3月14日	4月6日	5月11日	1月17日	1月27日	3月18日	4月7日	5月20日
(平年値)	(1月26日)		(3月27日)	(4月13日)	(5月17日)	(1月31日)		(3月30日)	(4月14日)	(5月23日)
11月11日	1月22日	2月1日	3月20日	4月9日	5月14日	1月25日	2月4日	3月25日	4月11日	5月22日
(平年値)	(2月6日)		(3月31日)	(4月16日)	(5月19日)	(2月10日)		(4月1日)	(4月16日)	(5月24日)
11月16日	1月28日	2月7日	3月26日	4月13日	5月17日	2月1日	2月11日	3月30日	4月14日	5月23日
(平年値)	(2月14日)		(4月3日)	(4月17日)	(5月21日)	(2月18日)		(4月5日)	(4月17日)	(5月25日)
11月21日	2月3日	2月13日	3月29日	4月15日	5月18日	2月9日	2月19日	4月1日	4月15日	5月24日
(平年値)	(2月21日)		(4月6日)	(4月19日)	(5月23日)	(2月24日)		(4月7日)	(4月19日)	(5月26日)
11月26日	2月12日	2月22日	4月2日	4月17日	5月21日	2月17日	2月27日	4月4日	4月17日	5月25日
(平年値)	(2月27日)		(4月9日)	(4月21日)	(5月24日)	(2月29日)		(4月8日)	(4月20日)	(5月26日)
12月1日	2月19日	2月29日	4月5日	4月19日	5月22日	2月23日	3月4日	4月6日	4月19日	5月26日
(平年値)	(3月2日)		(4月10日)	(4月22日)	(5月25日)	(3月5日)		(4月10日)	(4月21日)	(5月27日)
12月6日	2月23日	3月4日	4月7日	4月20日	5月23日	2月27日	3月8日	4月7日	4月19日	5月26日
(平年値)	(3月7日)		(4月12日)	(4月24日)	(5月27日)	(3月9日)		(4月11日)	(4月23日)	(5月28日)
12月11日	2月28日	3月9日	4月9日	4月21日	5月24日	3月2日	3月12日	4月9日	4月21日	5月27日
(平年値)	(3月11日)		(4月14日)	(4月25日)	(5月27日)	(3月12日)		(4月13日)	(4月23日)	(5月28日)

予測に用いた気温は、2020年1月29日までは観測値、2月12日までは予報値、その後は平年値。

最新の予測は、九州沖縄農業研究センターHPより閲覧できます。

http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html

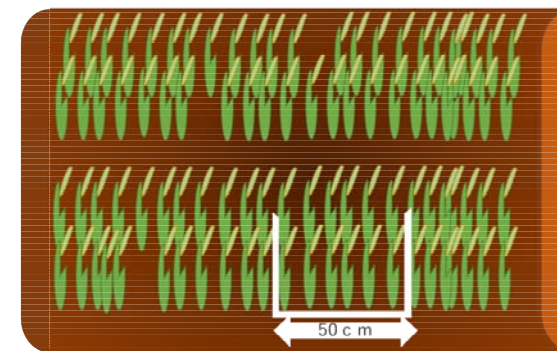
【穂ぞろい期追肥について】

今後の気象条件によっては、分けつが旺盛となり、茎数・穂数が多くなることによるタンパク質含有率の低下の恐れがある。以下の表（九州沖縄農業研究センター、佐賀県農試成果情報2008より）を参考に穂ぞろい期追肥を実施する。

小麦品種「チクゴイズミ」の子実タンパク質含有率を目標10.5%にするための穂揃期追肥窒素量（kg/10a）の目安

		穂数（本/㎡）						
		300	350	400	450	500	550	600
	34	4.1	4.8	-	-	-	-	-
S	36	3.8	4.4	-	-	-	-	-
P	38	3.5	4.1	4.7	-	-	-	-
A	40	3.2	3.8	4.3	4.8	-	-	-
D	42	2.9	3.4	3.9	4.4	4.9	-	-
値	44	2.6	3.1	3.5	4	4.4	4.8	
	46	2.4	2.7	3.1	3.5	3.9	4.3	4.7

- 1.この表は、有明海沿岸平坦重粘土地帯で適用できる。
- 2.葉色(SPAD値)は止葉の葉身の中央部分(葉脈を外す)を10点以上測定する。穂数は、圃場内の平均的な生育部の1畦50cm間の穂数を1圃場当たり2点以上測定し、m²当たり穂数に換算する。（右図）
- 3.子実タンパク質含有率は、登熟期間の気象条件(降水量)等によっても変動するため、表内の施用量はタンパク質含有率が確約されるものではない。
- 4.成熟期は穂揃期の追肥窒素量2kg/10a当り1日程度遅れることが考えられる。



$$\text{枠内の穂数} / ((\text{畝幅} \text{m} / 2) \times 0.5 \text{m}) = \text{m}^2 \text{当たりの穂数}$$

※追肥窒素量5kg以上は省略

出典：（2009）九州沖縄農業研究センター 成果情報「重年度地帯での「チクゴイズミ」の穂揃期追肥診断技術によるタンパク制御」より抜粋

参考

硫安（21%）の穂揃期追肥量（kg/10a）

		穂数（本/㎡）						
		300	350	400	450	500	550	600
	34	20	23	-	-	-	-	-
S	36	18	21	-	-	-	-	-
P	38	17	20	22	-	-	-	-
A	40	15	18	20	23	-	-	-
D	42	14	16	19	21	23	-	-
値	44	12	15	17	19	21	23	
	46	11	13	15	17	19	20	22

尿素（46%）の穂揃期追肥量（kg/10a）

		穂数（本/㎡）						
		300	350	400	450	500	550	600
	34	9	10	-	-	-	-	-
S	36	8	10	-	-	-	-	-
P	38	8	9	10	-	-	-	-
A	40	7	8	9	10	-	-	-
D	42	6	7	8	10	11	-	-
値	44	6	7	8	9	10	10	
	46	5	6	7	8	8	9	10

※ご不明な点がございましたら普及センターまでお問い合わせください